

科目名		ビジネスマナー			
担当教員	倉田 純子	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。 また、9月に受験をする社会人常識マナー検定に向けて、過去問題は宿題で行い、合格点に達しない学生は補講を行い、合格できる準備を整える。				
学習目標 (到達目標)	社会人常識マナー検定に合格できる、ビジネスマナーを身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ウイネット 実践ビジネスマナー 公益社団法人全国経理教育協会 社会人常識マナー検定試験				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	仕事に取り組む心構え	P8-12 教務室入退室・書類の提出の仕方チェック			
2	報告・連絡・相談、会社の組織	P13-16 指示を受けて業務を遂行し報告するロールプレイング			
3	基本動作、言葉の遣い方	P18-30 お辞儀・椅子の座り方チェック			
4	受付の仕方、名刺の渡し方	P32-40 受付ロールプレイング			
5	取り次ぎの仕方、案内の仕方	P41-48 受付→応接室案内ロールプレイング			
6	応接室の案内の仕方、お茶の出し方、環境整備	P49-56 お茶出しロールプレイング			
7	電話の受け方、伝言メモ	P55-69			
8	電話のかけ方	P70-76 インターンシップ確認電話ロールプレイング			
9	慶事業務	プリント			
10	弔辞業務、お見舞い	プリント			
11	社内で使用する備品、郵便の取り扱い	プリント			
12	ビジネス文書とは、社内文書作成の仕方、メールの送り方	プリント iPad(スマホ)でメール作成送信添削			
13	社外文書作成の仕方	プリント PC(iPad)で社外文書作成提出添削			
14	お礼状の作成の仕方	プリント 直筆でお礼状作成提出添削			
15	期末試験				
16	期末試験、解答・解説				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		積極的にロールプレイングに取り組み、提出物の期限は守ること。 インターンシップ前後に行う電話がけやお礼状作成など、マニュアル通り行えないことを理解し、臨機応変に対応できるように毎日の学校生活でもビジネスマナーを意識すること。			
実務経験教員の経歴					

科目名		コンピュータ実習 I			
担当教員	古俣 秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	日本語文章入力がある程度の速さで、正確に行えるようにする Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験 3級 取得				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	Word2016 クイックマスター 基本編 Word文書処理技能認定試験 3級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Wordの基本		授業の目的の理解 Windows基本操作、基本知識の重要性		
2	Chapter2 文字の入力と編集の基本操作 Chapter3 文書の編集		日本語入力の基本操作の確認 正確な入力の重要性、コピー・移動の状況に応じた方法		
3	Chapter3 文書の編集		Wordにおける段落書式の重要性		
4	Chapter3 文書の編集 Chapter4 文書の印刷		C2～3で学習した内容を該当設問で確認		
5	Chapter5 文書の作成		タブ機能の重要性の理解、タブ設定とタブ挿入の理解 ルーラーの重要性の確認		
6	Chapter6 表を使った文書の作成		表作成・編集の基本の理解、操作に応じたりボンの確認 C4～6で学習した内容を該当設問で確認		
7	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成		オブジェクト作成・編集操作の基本の理解		
8	練習問題1		QMで学習した機能を確認しながら設問解答 実用目的の成果物として完成させる		
9	練習問題2～		「作成」ファイルと「編集」ファイルの保存の必要性、名前 を付けて保存と上書き保存の理解の重要性		
10	練習問題		完成確認後、各自で次の練習問題に進む 練習問題2「編集」の確認と疑問点などの確認・回答		
11	練習問題		"		
12	模擬問題		"		
13	模擬問題		"		
14	試験実施プログラム 模擬問題		プログラム操作方法・試験の流れの確認 画面配置に慣れる。解答ファイル採点		
15	試験実施プログラム サンプル問題		前問題振り返り 時間計測して実施 解答ファイル採点		
16	検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、文書作成の方法をしっかりとマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。		
実務経験教員の経歴		一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた			

科目名		就職実務 I			
担当教員	中野 貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。 身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年(翌々年)の就職活動を意識する。				
学習目標 (到達目標)	就職活動の心構えと流れを知ることができる。 自分と職業を理解することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動画で学ぶ 就活ナビ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	これからどう生きていくか、一生でどのくらい稼げるのか、どんな生活を送りたいか、社会はどんな人材を求めているのか		動画1-1~4		
2	チャンスを逃がさない、働く理由を考える		動画1-5~6		
3	伝わる文章の書き方、相手を納得させる論理力、構成を考える		動画3-1~3		
4	自己PRのネタを探す、自己PRの骨格をつくる、説得力のある自己PRをつくる		動画3-4~6		
5	BtoBとBtoCの違いを知る、業界について考える、職種について考える		動画2-1~3		
6	求職登録面接とは何か、求職票作成の仕方、インターンシップとは何か、インターンシップ申込書作成の仕方		プリント		
7	求職票作成、自己PR作成、面接練習①		個別作業		
8	求職票作成、自己PR作成、面接練習②		個別作業		
9	求職票作成、自己PR作成、面接練習③		個別作業		
10	身だしなみセミナー、求職登録面接		女子メイクセミナー、男子身だしなみセミナーを受講 求職登録面接を受ける		
11	インターンシップ履歴書作成の仕方		プリント		
12	企業研究の仕方、志望動機の書き方		動画2-4、3-7		
13	履歴書作成、志望動機作成①		個別作業		
14	履歴書作成、志望動機作成②		個別作業		
15	インターンシップ日誌の作成の仕方、身だしなみについて		プリント、動画5-1		
16	就職研修		インターンシップに向けての心構えと問題事例、また今後の就職活動に向けての心構えを学ぶ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			書類作成や面接練習をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。面接練習は必ず事前に準備しておくこと。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として12年勤務			

科目名		コミュニケーション実践 I			
担当教員	中野 貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。 コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。				
学習目標 (到達目標)	周囲の人と「話す」こと、「聞く」ことによって円滑なコミュニケーションをとることができる。 コミュニケーション検定初級合格ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社サーティファイ コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションを考える、目的に即して聴く		P2-9		
2	傾聴・質問する		P10-14		
3	目的を意識する、話を組み立てる		P15-22		
4	言葉を選び抜く		P23-29		
5	表現・伝達する		P30		
6	来客対応		P36-39		
7	電話対応		P40-43		
8	アポイントメント・訪問・挨拶		P44-48		
9	情報共有の重要性、チームコミュニケーション		P49-59		
10	接客・営業、クレーム対応		P60-71		
11	会議・取材・ヒアリング、面接		P72-82		
12	模擬問題		P84-99		
13	過去問題①		P100-115		
14	過去問題②		P116-131		
15	過去問題③		P132-148		
16	コミュニケーション検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			コミュニケーション検定合格のために、毎回授業に出席する。		
実務経験教員の経歴		専門学校教員として12年勤務			

科目名 人と動物の関係学					
担当教員	山崎 恵子		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何か？を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	日本や世界の動物業界の現状や動物福祉のあり方について理解することができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物の代弁者になることについて				
2	真の動物愛護とは				
3	ブリーディングの問題				
4	飼い主の責任				
5	動物の死とベトロス				
6	シェルターワーク				
7	動物虐待				
8	災害時の動物				
9	犬のデイケア				
10	犬猫の行動学				
11	Tタッチ理論				
12	Tタッチ実践		特別講義		
13	動物愛護教育				
14	動物保護活動				
15	期末試験				
16	エコ・ツーリズム				
17	動物愛護法				
18	アニマル・エシックス(実験動物・産業動物)				
19	アニマル・エシックス(展示動物)				
20	アニマル・エシックス(補助犬)				
21	安楽死とベトロス		特別講義		
22	動物愛護法と動物の福祉		特別講義		
23	期末試験				
24	動物との共生				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			全ての授業に出席し、かつ毎回のテーマごとにレポートを提出すること。		
実務経験教員の経歴			一般社団法人アニマル・リテラシー総研		

科目名		AAA実習			
担当教員	青木 和孝		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会的側面から理解する。 また、動物介在活動を安全に実施するにあたり必要な配慮やリスク管理を理解する。				
学習目標 (到達目標)	人と動物の調和に関わることを学ぶことができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	職員作成パワポ資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	人と動物の関係の歴史		パワポ資料		
2	人と動物の関係のなりたち		パワポ資料		
3	人と動物の絆について		パワポ資料		
4	動物が人に及ぼす影響について		パワポ資料		
5	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育の定義		パワポ資料		
6	動物介在療法の事例紹介		パワポ資料		
7	動物介在活動の事例紹介		パワポ資料		
8	動物介在教育の事例紹介		パワポ資料		
9	参加動物の選別基準		パワポ資料		
10	参加動物に適した育成方法の選択		パワポ資料		
11	さまざまな人と動物の関係		パワポ資料		
12	AAIIにおける人獣共通感染症のリスク		パワポ資料		
13	ストレスの把握とストレス管理		パワポ資料		
14	訪問活動に向けて		パワポ資料		
15	期末試験				
16	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			科学的なエビデンスに基づいた人と動物の相互関係の理解。動物福祉を考慮した参加動物の選別とトレーニング法の選択を理解する。		
実務経験教員の経歴		動物看護師として動物病院で現在も勤務中			

科目名		AAA総論			
担当教員	山下 静香	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	AAA、AATについて理解をすることを目的に、訪問活動に必要な様々な技術を実践形式で行い、日々の生活でも活用できるよう身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問活動に必要なコミュニケーション技術を身に付けることができる ●訪問活動に必要なハンドリングを理解し、実行することができる 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	[参考] 緑書房 動物看護の教科書 第1巻、教員作成資料				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業概要の説明、好きな動物・嫌いな動物	配布プリントにて書き込み			
2	AAA,AATとは	配布プリントにて書き込み			
3	AAA実習の流れ、活動VTR	配布プリントにて書き込み、実際の活動の様子を動画鑑賞			
4	他己紹介インタビュータイム、他己紹介発表	ランダムにペアを決め、お互いを紹介し合う			
5	水平思考とは	配布プリントにてゲーム形式で実践			
6	犬の観察	犬を部屋内でフリーにして細かい動きを観察シートに記入※観察シートにて成績評価			
7	犬の抱き寄せ	犬の正しい抱き寄せ方を見本、その後実践			
8	リードの持ち方、扱い方、クレートの扱い方	様々な様式を正しく扱えるように実践			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
犬の観察にて行う観察シートとその感想をまとめたレポートで成績評価をつける。		AAA/AAT/AEそれぞれの区別をまずは理解させるため、実際の動画を用いて視覚的にも正しい理解を深める必要がある。また、動物の扱いも初めての学生が多いため、見本を見せてから行う。ただ、動物へ負荷がかかりすぎないように注視する。			
実務経験教員の経歴		動物看護師として訪問活動に参加経験あり			

科目名		飼養管理士総論			
担当教員	山田 佳枝	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物が「命」あるものとし、「人と動物の共生」が必要となっている。そのための動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。 愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、授業を行っていく。				
学習目標 (到達目標)	動物に関わる法律を理解し、動物種の生態・飼育方法をアドバイスできるようになる。 愛玩動物飼養管理士2級の取得。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	愛玩動物飼養管理士2級教本				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	鳥類について 形態的特徴、飼養管理(インコ、オウム)	単元が終了した時点で必ず確認テストを実施			
2	鳥類について 飼養管理(フィンチ、ニワトリ、アヒル、ハト)				
3	鳥類について 繁殖、確認テスト				
4	からだの仕組み からだの成り立ち、栄養・酵素を取り入れる				
5	からだの仕組み 老廃物の排出、情報を取り入れる、情報伝達				
6	からだの仕組み 確認テスト				
7	愛玩動物飼養管理士の社会活動				
8	愛玩動物飼養管理士とは				
9	愛玩動物飼養管理士について 確認テスト				
10	動物愛護論 I 海外と日本について				
11	動物愛護論 I 動物愛護運動について				
12	動物愛護論 I 確認テスト				
13	人と動物の関係学①				
14	人と動物の関係学②				
15	人と動物の関係学 確認テスト				
16	期末テスト				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		専門学校教員歴 15年			

科目名		エキゾチックアニマル I			
担当教員	広川美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	現在飼育されている動物は、犬猫だけではないため、生体の特徴、飼育方法を理解する。販売に携わる際には、飼育方法をアドバイスできるようになる。				
学習目標 (到達目標)	愛玩動物飼養管理士2級合格。飼い主に飼育アドバイスが出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	愛玩テキスト2巻				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ウサギ 飼養管理				
2	ハムスター 飼養管理				
3	モルモット 飼養管理				
4	フェレット 飼養管理				
5	チンチラ 飼養管理				
6	犬猫分類、歴史				
7	犬、猫の特徴				
8	犬猫と暮らす、環境				
9	犬猫のライフサイクル①				
10	犬猫のライフサイクル②				
11	犬猫の社会化				
12	しつけについて				
13	犬猫の毎日の生活 食事				
14	犬猫の発情、健康管理				
15	テスト+(解説)				
16	解説				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		動物病院にて動物看護師兼トリマー 10年、独立サロン経営 18年			

科目名		動物関係法規			
担当教員	竹石 拓矢	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。 愛玩動物飼養管理士2級合格へ向けて、検定出題範囲の関連法について理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	愛玩動物飼養管理士2級合格 と倫理を理解することで、動物取扱業者における業務を円滑に行えるようにする。 基づく疾病予防等の飼い主義務について飼い主への助言が出来るようになる。				動物に関連する法規 法規に
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	パワーポイント、レジュメ 愛玩動物飼養管理士2級第1巻				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	法規とは何か、法規の概念を理解する	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
2	日本における法令の種類(法律、政令、省令・府令、条約、条例)	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
3	動物愛護法①	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
4	動物愛護法②	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
5	動物愛護法③	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
6	愛護法振り返りテスト	動物愛護法について中間のミニテストの実施			
7	動物愛護法④	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
8	動物愛護法⑤	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
9	動物愛護法⑥	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
10	愛護法振り返りテスト②	動物愛護法について振り返りテストの実施			
11	狂犬病予防法①	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
12	狂犬病予防法②	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
13	身体障害者補助犬法	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
14	ペットフード安全法	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
15	鳥獣保護法、ワシントン条約、ラムサール条約	パワーポイントの投影、レジュメの書き込み			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		本科目は愛玩動物飼養管理士2級合格に必要な法規の知識を習得する。授業で配布する資料についても熟読が必要。			
実務経験教員の経歴		ドッグトレーナーとして約1年間トリミングサロンにて勤務			

科目名		解剖・生理学			
担当教員	山下 静香		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ●動物の体のしくみやはたらきを理解することができる ●各組織における検査の種類や手技、代表的な疾患を把握し、ケアすることができる 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	緑書房 ビジュアルで学ぶ 動物看護学[第2版]、緑書房 ビジュアルで学ぶ 伴侶動物解剖生理学				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業概要、体の基本構造について	伴侶動物解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
2	外皮系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
3	運動器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
4	神経系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
5	感覚器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
6	感覚器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
7	循環器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
8	循環器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
9	呼吸器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
10	上部消化器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
11	下部消化器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
12	泌尿器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
13	内分泌系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
14	生殖器系 しくみとはたらき、主な検査、代表的な疾患、ケア	動物看護学[第2版]、解剖生理学のテキスト 配布プリントにて書き込み			
15	期末試験				
16	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		動物病院での実習や勤務を想定し、動物の体の基本構造から検査や疾病、看護師としての仕事も併せて履修する。 解剖生理学は難しい分野ととらわれがちなので、現場での経験などを踏まえながら、より身近に感じられるように意識する。			
実務経験教員の経歴	動物看護師として約4年勤務				

科目名		公衆衛生学			
担当教員	東海林 愛美	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける。また、ワクチンについて飼い主に説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ビジュアルで学ぶ動物看護学				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	公衆衛生学を学ぶ意義(公衆衛生と獣医療・疾病・環境との関わり)(狂犬病のDVD・レポート作成)	テキスト、DVD観賞			
2	【小テスト…狂犬病】 感染と発症の流れ(用語の意味)	テキスト、資料の使用			
3	【小テスト…用語の定義】 微生物学(微生物とは/細菌について)	テキスト、資料の使用			
4	微生物学(真菌について/原虫について)	テキスト、資料の使用			
5	微生物学(ウイルスについて) 感染症の予防と治療…薬理学	テキスト、資料の使用			
6	微生物学(ウイルスについて) 感染症の予防と治療…薬理学	テキスト、資料の使用			
7	洗浄、消毒と滅菌(洗浄・消毒・滅菌の違いとその特徴)	テキスト、資料、消毒薬見本の使用			
8	洗浄、消毒と滅菌(消毒・滅菌の方法と使い分け)	テキスト、資料、消毒薬見本の使用			
9	【小テスト…消毒、滅菌】 免疫学(免疫機構)	テキスト、資料の使用			
10	免疫学(抗原と抗体/免疫性疾患/アレルギーについて)	テキスト、資料の使用			
11	免疫学(ワクチンの種類/ワクチンで予防できる感染症/ワクチン接種プログラムと副反応)	テキスト、資料の使用			
12	感染症学(各種飼育動物(犬・猫・鳥類・兎・猿)の代表的な感染症)	テキスト、資料の使用			
13	感染症学(人獣共通感染症の症状とその予防)	テキスト、資料の使用			
14	感染症学(人獣共通感染症の症状とその予防)	テキスト、資料の使用			
15	感染症学(人獣共通感染症の症状とその予防)	テキスト、資料の使用			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		小テストを実施しながら理解度を確認する			
実務経験教員の経歴		動物病院にて、動物看護師として13年実務経験			

科目名		動物栄養学			
担当教員	川口 和清		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。				
学習目標 (到達目標)	栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	(株)インターズー発行 ビジュアルで学ぶ動物看護学				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物栄養学総論		テキスト、資料を使用		
2	基礎栄養学		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
3	基礎栄養素 水、タンパク質①		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
4	基礎栄養素 タンパク質②		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
5	基礎栄養素 炭水化物、脂肪		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
6	基礎栄養素 ミネラル、ビタミン		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
7	イヌとネコの栄養要求の違い①		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
8	イヌとネコの栄養要求の違い② ライフステージ別の栄養管理①		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
9	ライフステージ別の栄養管理②		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
10	ライフステージ別の栄養管理③		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
11	ライフステージ別の栄養管理④		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
12	ライフステージ別の栄養管理⑤ ペットフードの表示の見方①		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
13	ペットフードの表示の見方② BCS評価とカロリー計算の仕方①		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
14	BCS評価とカロリー計算の仕方②		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
15	ペットフードの種類		小テストの実施、テキスト、資料を使用		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			解剖生理の復習、小テストを実施し、理解度を確認する。		
実務経験教員の経歴		ペットフードメーカーにて企画開発・営業等に携わった			

動物飼育実習					
科目名	動物飼育実習				
担当教員	佐藤 大輝、佐藤 緑、佐山 恭子	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	76時間
授業概要、目的、授業の進め方	実習前座学:実習前に必要な知識を伝え、なぜ行うのか理由から方法を覚えられるようにする 実習:座学で得た知識を実践する。到達目標を細かく刻み、自信を持ってもらう。 掃除においてはインターンシップと基本となる項目。 動物を触るだけが、仕事ではないため、率先して動ける人材へ。				
学習目標(到達目標)	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動物看護実習テキスト				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	アレルギー調査、実習スタイルについて、飼育室の出入り方法	教員が見本となる、実習室への見学			
2	消毒や手洗いの実施について、犬について(PD、テキスト)	理由を明確に伝え納得させる、犬の触れ合い			
3	猫について(PD、テキスト)、管理帳の記入の仕方について	管理帳見本を配布し記入させる、猫の触れ合い			
4	小動物(ウサギ、モルモット、ハムスター)について	自作プリントを配布、小動物の触れ合い			
5	飼育室の見学(物の配置確認)、掃除の仕方、洗濯方法	先輩に指導を受ける、メモをとる			
6	病気の予防や診察について、日誌の書き方	日誌を実際に書いてもらう			
7	実習前の総確認、小テスト	実習に必要な技術を見直す			
8	フィードバック	覚え直し			
9	(実習)犬の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(犬)への接触方法、管理方法を学ぶ			
10	(実習)猫の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(猫)への接触方法、管理方法を学ぶ			
11	(実習)ウサギの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ウサギ)への接触方法、管理方法を学ぶ			
12	(実習)モルモットの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(モルモット)への接触方法、管理方法を学ぶ			
13	(実習)ハムスターの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ハムスター)への接触方法、管理方法を学ぶ			
14	(実習)犬の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(犬)への接触方法、管理方法を学ぶ			
15	期末試験(筆記)	正しい知識を覚えているか			
16	フィードバック	間違えたままにせず、確認を行う			
17	(実習)犬の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(犬)への接触方法、管理方法を学ぶ			
18	(実習)猫の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(猫)への接触方法、管理方法を学ぶ			
19	(実習)ウサギの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ウサギ)への接触方法、管理方法を学ぶ			
20	(実習)モルモットの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(モルモット)への接触方法、管理方法を学ぶ			
21	(実習)ハムスターの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ハムスター)への接触方法、管理方法を学ぶ			
22	(実習)犬の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(犬)への接触方法、管理方法を学ぶ			
23	(実習)猫の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(猫)への接触方法、管理方法を学ぶ			
24	(実習)ウサギの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ウサギ)への接触方法、管理方法を学ぶ			
25	(実習)モルモットの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(モルモット)への接触方法、管理方法を学ぶ			
26	(実習)ハムスターの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ハムスター)への接触方法、管理方法を学ぶ			
27	(実習)犬の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(犬)への接触方法、管理方法を学ぶ			
28	(実習)猫の管理、お世話、食事について	WaNファミリー(猫)への接触方法、管理方法を学ぶ			
29	(実習)ウサギの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(ウサギ)への接触方法、管理方法を学ぶ			
30	(実習)モルモットの管理、お世話、食事について	WaNファミリー(モルモット)への接触方法、管理方法を学ぶ			
31	期末試験(筆記)	正しい知識を覚えているか			
32	フィードバック	間違えたままにせず、確認を行う			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		飼育経験のない動物もいることから、接触方法や飼育管理方法の違いについて習得し、実践する。苦手意識が出ないよう、わからないことをそのままにせず先輩や先生に質問し、自信をつけていく。			
実務経験教員の経歴					

科目名		グルーミング理論			
担当教員	山田 佳枝	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名、使用方法を学ぶ。グルーミングを行う上での注意点を理解する。また、犬種についての知識も学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	犬種への理解を深め、犬種ごとに必要なグルーミング方法を選択できるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	インターズー ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック インターズー 最新犬種図鑑				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	グルーミングの目的、トリマーの心構えについて				
2	シャンプー剤の知識、グルーミングの流れ・注意点①				
3	グルーミングの流れ・注意点②、道具の使い方				
4	スタンダードの理解、体表の生理				
5	犬種について 1G、2G、3G	各グループの中の代表犬種について学ぶ			
6	犬種について 4G、5G、6G				
7	犬種について 7G、8G、9G、10G				
8	期末試験				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		専門学校教員歴 15年			

科目名		グルーミング実習			
担当教員	山田 佳枝	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	動物のプロとして必要な日頃のケアについて学ぶ。グルーミングの流れ、注意点について学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	グルーミングの流れを理解し、道具を正しく使い、グルーミングが出来るようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	グルーミングの目的、流れ、注意点について 道具の名称、使い方について				
2	グルーミングデモンストレーション	実際のグルーミングを見て、犬の扱い方を学ぶ			
3	グルーミング実習(実践)チワワ等				
4	グルーミング実習(実践)パグ等				
5	グルーミング実習(実践)ポメラニアン等				
6	グルーミング実習(実践)プードル等				
7	グルーミング実習(実践)シュナウザー等				
8	期末試験				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		専門学校教員歴 15年			

しつけトレーニング実習					
科目名	しつけトレーニング実習				
担当教員	金子 真弓		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	1.犬のトレーニング実技を行う。 2.実際の道具やデモンストレーションを見る。 3.テキストやホワイトボードを使用し内容を説明。				
学習目標 (到達目標)	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる 犬と関わる上での必要な事や必要な物を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	犬の問題はこうして直す「THE Tool Box」				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	・犬の観察しつけとは？、問題行動とは？飼い主にとって好ましくない行動⇒好ましい行動として肯定文として説明				
2	・リーダー、アルファとは？上下関係、主従関係×、ハビの結核について、所有感について、「おもちゃで遊ぶことについて」リードの持ち方、近くでリード、返くを歩く、回す	テキスト使用			
3	・飼い主の手を良いものに学習させる。「ピーナッツバター療法」でケア時に条件付け、マズルコントロール、アルファロール×トレーニング⇒回す、オスワリ、フセ(誘導で)	テキスト使用			
4	・ケージ/クレートに預けて(何故ケージが必要か?) オスワリ、フセ、夕方をそれぞれの姿勢から誘導 オスワリやフセ、オスワリやフセ、フセやフセ	実際の道具を見せる、トレーニングの方法をデモンストレーション			
5	・犬を家族として迎える前に準備するモノは？ 名前を教える、アイコンタクト、返くを歩く	実際の道具を一部見せる			
6	・犬を家族として迎える前に準備しておきたいことについて どんな犬？成犬or子犬orオスorメス、犬種など ・実習:コングを作る(中に食べ物を詰める)、回す、横につける、フアンションなど				
7	・ストレスについて 3つの「F」、カーミングシグナルについて ・実習:立ち方について(バランス良く立つ、犬側の前に立ち犬側を向くこと)	テキスト使用			
8	・犬の行動問題について:原因は？犬種の特性、身体の不快、先天的な要因、社会化不足などについて ・実習:Tタッチ、立ち位置(犬の肩の辺りに立ち、犬側を少し向く)、リードの持ち方				
9	・学習理論:報酬はランダムにしておく、誘導から合図をつける⇒ハンドシグナル ・回す、オスワリやフセをハンドシグナル、マッチ				
10	・トイレットトレーニングについて ハンドシグナルでオスワリ、フセ、回す、マッチ、Tタッチ	DVD鑑賞			
11	・合図を教えるトレーニングについて				
12	・嫌悪刺激を使ったトレーニングの仕組み(モチベーションを使った方法) ・自発的アイコンタクト、左右にご褒美を持った手を移動させてトレーニング				
13	セルダウン:飼い主の足元で大人しく落ち着く(フセの状態)、マグネットトレーニング:誘導とは異なり、全てのトレーニングの幹	足元でフセのトレーニングのデモンストレーション			
14	・ポディランゲージ、カーミングシグナルについて ・呼び戻し、返くを歩く(人がボール役になり、8の字で歩く)	DVD鑑賞			
15	・古典的条件付け(拒否条件付け、逆条件付け)、正の罰について罰とは？嫌悪刺激 ・古典的条件付けでフアン、手、ハンドタオルで触る刺激に慣らす				
16	・散歩の引っ張りについて(ジェントルリーダー、ハルティ、イージーウォークハーネスについて)	実際の道具を見せてデモンストレーション			
17	・シェパードについて(人だけでクリッカーの練習)	トランプを使用して、人同士で練習			
18	・動画鑑賞:ハビークラス、フリススタイルなど ・実習:クリックカートトレーニング、犬がイスの上に前足を乗せる、イスの下に頭を入れる	モニターより動画鑑賞(実際の教室の様子など)			
19	・Tool Box:健康、環境を豊かにする、リーダーシップ、管理、妥協、原因を取り除く、系統的脱感作、ご褒美を取り除く ハンドシグナルのトレーニング(オスワリ、フセ、回す)	テキスト使用			
20	・Tool Box: 固執しない行動にご褒美を与える、慣らす、関連付けの応用、嫌悪刺激、Tool Boxを使って、問題を解決を考える(8組に分かれて)、実習:呼び戻し	テキスト使用			
21	・シェパード(クリックカートトレーニング) ・人同士でクリックカートトレーニング:クリッカー配布				
22	・シェパード②(クリックカートトレーニング、基準が大きい場合は細かく分ける) ・人同士でクリックカートトレーニング、犬でのシェパードデモ:イスの下に頭を入れる				
23	・シェパード③(クリックカートトレーニング) ・人同士でクリックカートトレーニング、犬にクリッカーでトレーニング				
24	・シェパード④(クリックカートトレーニング) ・人同士でクリックカートトレーニング、犬にクリッカーでトレーニング(オスワリ、フセでクリッカーする)				
25	・シェパード⑤(クリックカートトレーニング) ・人同士でクリックカートトレーニング、犬のクリッカーでトレーニング(イスの下に頭を入れる)				
26	・シェパード⑥(クリックカートトレーニング) ・人同士でクリックカートトレーニング、犬のクリッカーでトレーニング(イスの下に頭を入れる練習)				
27	・犬の本能:食物獲得、危険回避、繁殖⇒トレーニングで食物獲得を利用、食べ方が強い(痛い)犬のトレーニング、おもちゃ遊びデモ・行動に合図を付ける				
28	・犬の本能:食物獲得、危険回避、繁殖⇒トレーニングで食物獲得を利用、食べ方が強い(痛い)犬のトレーニング、おもちゃ遊びデモ・行動に合図を付ける				
29	・古典的条件付け、拒否条件付け、脱感作について				
30	・オペラント条件付けについて				
31	・呼び戻しについて				
32	・トリックをランダムにしてルアーを無くすトレーニングについて				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート提出100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		しつけインストラクターとして約25年以上活動			

科目名		犬の世話と管理 I			
担当教員	中野 貴行	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	2年時の担当犬の世話を理解するために世話の流れや注意すべきことなどを実際の世話を通して学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	犬の管理について理解を深めることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	世話をを行う上での注意事項説明				
2	2年生担当犬の世話管理補助『世話の流れ』				
3	2年生担当犬の世話管理補助『犬舎掃除』				
4	2年生担当犬の世話管理補助『散歩の仕方』				
5	2年生担当犬の世話管理補助『日々のケアについて』				
6	2年生担当犬の世話管理補助『健康管理チェック』				
7	2年生担当犬の世話管理補助『体重測定』				
8	2年生担当犬の世話管理補助『散歩の注意点』				
9	2年生担当犬の世話管理補助『全般的な管理について』				
10	2年生担当犬の世話管理補助『外でのトレーニングについて』				
11	2年生担当犬の世話管理補助『健康管理チェック』				
12	2年生担当犬の世話管理補助『散歩で必要なトレーニング』				
13	2年生担当犬の世話管理補助『環境整備について』				
14	2年生担当犬の世話管理補助『ケアについて』				
15	2年生担当犬の世話管理補助『来年度に向けて①』				
16	2年生担当犬の世話管理補助『来年度に向けて②』				
17	実際の犬の管理について知る	新潟市動物ふれあいセンターにて実習			
18	現場での犬の管理の注意点を知る	新潟市動物ふれあいセンターにて実習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート提出100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		専門学校教員として12年勤務			

科目名	ドッグマネジメント I				
担当教員	中野 貴行	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	健康管理や必要な道具、管理で注意すべきことなどを理解する。パワーポイントや資料配布で授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	犬の管理に必要な知識を身に付け、それをアドバイスできるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	・授業概要 ・犬の世話で必要なものとは？				
2	・GCTに関して 概要と来年受験への動機付け				
3	・日々の健康チェックに関して 健康チェック部位と病気				
4	・管理面でのチェックに関して				
5	・ケージに関して種類と組立				
6	・道具に関して① リード、カラーなど装着する道具紹介				
7	・道具に関して② コングやおもちゃ類紹介				
8	・散歩に関して① 散歩時に必要なものと注意点				
9	・散歩に関して② 散歩中人が近づいてきたら？犬連れの人近づいてきたら？ ケーススタディと対処				
10	・グループで犬を管理することとは？ 複数管理のメリット、デメリット				
11	犬種プレゼンテーション(調べる)				
12	犬種プレゼンテーション(調べる)				
13	犬種プレゼンテーション(発表)				
14	まとめ				
15	期末試験実施				
16	試験解説				
17	実際の犬の管理について	新潟市動物ふれあいセンターにて実習			
18	実際の犬の管理と世話について	新潟市動物ふれあいセンターにて実習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
筆記試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	専門学校教員として12年勤務				

科目名		動物看護実践 I			
	岡崎 康隆	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	1年	開講時期	半期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	動物病院での診療補助を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	動物の取り扱い方法、注射などの基本的な道具の取り扱いが習得できる。 動物病院での基礎的な知識を身に付け、病院に限らず、ショップ等での飼い主対応にも役立てられる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動物看護実習テキスト(インターズー)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物病院でのしごとについて		パワーポイント資料		
2	動物の保定		パワーポイント資料		
3	動物の保定		実習(犬の保定)		
4	身体検査とバイタルチェック		実習(犬の保定、バイタルチェック)		
5	採血補助と投薬法		実習(犬の保定)		
6	点眼/点耳/エリザベスカラーの装着		実習(犬の保定)		
7	輸液ラインの接続		実習(輸液)		
8	輸液管理		実習(輸液)		
9	シリンジの扱い方/薬剤の準備		実習(シリンジの扱い方)		
10	薬剤の準備/衛生管理・入院管理		実習(薬剤の準備)		
11	薬剤用語/色々な薬/様々な調剤		実習(調剤)		
12	様々な調剤		実習(調剤)		
13	高齢動物と罹患動物のケア		パワーポイント資料		
14	幼齢動物のケア		パワーポイント資料		
15	筆記試験				
16	フィードバック		1年次の総まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動物病院への就職も視野へ入れて幅広く知識を身につける		
実務経験教員の経歴	動物病院にて8年間の実務経験あり				

科目名		寄生虫学			
担当教員	東海林 愛美		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	内部寄生虫、外部寄生虫の生活環、病害、予防方法について学ぶ				
学習目標 (到達目標)	臨床現場で見られる寄生虫の特徴や病害、予防方法を学び飼い主へアドバイスできるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ビジュアルで学ぶ動物看護学				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	総論 寄生虫とは何か		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
2	外部寄生虫総論 ダニ類(マダニ)、ノミ		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
3	外部寄生虫 ツメダニ、イヌニキビダニ		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
4	外部寄生虫 ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、シラミ、ハジラミ		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
5	外部寄生虫 小テスト 内部寄生虫 犬糸状虫		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
6	内部寄生虫 回虫類、鉤虫、アニサキス、糞線虫、鞭虫		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
7	内部寄生虫 条虫類(マンソン裂頭条虫、瓜実条虫、多包条虫) 原虫類(ジアルジア、コクシジウム、トキソプラズマ)		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
8	内部寄生虫、外部寄生虫 小テスト		テキスト、資料、寄生虫模型の使用		
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			小テストを実施しながら理解度を確認する		
実務経験教員の経歴		動物病院にて、動物看護師として13年実務経験			

科目名		ドッグトレーニング実習 I			
担当教員	長谷川 あや甫	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	1年生と2年生が同じトレーニングを行い、2年生が1年生にトレーニングの方法を伝えることで、人に伝える力を養う。1年生は2年生の伝え方を学び、トレーニング技術を向上する。 2年生はトレーニング方法も考える。				
学習目標 (到達目標)	2年生は人(飼い主)にトレーニングをアドバイスすることができるようになる、1年生は伝えられたことを実施し、トレーニング技術を向上することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	Goマットのトレーニング	(1. 8m離れたところのマットまで送り出す。犬の四肢(特に前足)がはみ出ないこと。OKが出るまで、マットで伏せていること)			
2	Goマット、アラウンド&前進、箱に入る(高さ、広さ、誘導Orシェーピング)→箱の中でスピンかターンor箱に乗る	アラウンド&前進:アラウンドをしながら人は止まらずに前進し続ける			
3	Goマット、アラウンド+前進、箱に入る(スピン&ターン)				
4	Goマット、アラウンド+前進、箱に入る(スピン&ターン) スピン&ターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待つ(伏せ、おすわりから誘導で)				
5	スピン&ターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待つ(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)、ハンドラー役と犬役に分かれてハンドリング(ヒーリング)				
6	スピン&ターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待つ(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)、ガムテープのタッチ(壁の垂直面)(鼻先でタッチ)				
7	スピン&ターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待つ(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)、ガムテープのタッチ(壁の垂直面)(鼻先でタッチ)				
8	スピン&ターン(声符で)、立って待つ(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)				
9	ガムテープのタッチ(壁の垂直面)(鼻先でタッチ)、フロント、手のウィーブ				
10	フロント、手のウィーブ、立って待つ(おすわり、伏せから誘導で)				
11	後期テストの打ち合わせ(ゲーム)				
12	企画ゲームのリハーサル				
13	企画ゲーム注意点、改善点の指導				
14	実技試験(企画ゲーム)実施				
15	実技試験(企画ゲーム)実施				
16	実技試験解説				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実技試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		しつけインストラクターとして25年活動			

科目名		コンピュータ実習Ⅱ			
担当教員	古俣 秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Excelの理解を深め、自信をもって活用できる基本技能を身につける				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験 3級 取得				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	Excel2016 クイックマスター 基本編				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Excelの基本 Chapter2 データの編集		画面構成、用語の確認 範囲選択 文字の入力、数値の入力		
2	Chapter2 データの編集 ●問題集 練習問題1【問題2】(1)～(3)		日付の入力、オートフィル、数式、合計関数、相対参照・ 絶対参照、コピー・移動		
3	Chapter3 表の編集 ●問題集 練習問題2【問題2】(1)～(3)		セルの書式設定、表示形式		
4	Chapter7 関数		基本関数の意味と使い方(平均、最大、最少、データの 個数、順位)		
5	Chapter8 データベース機能 ●問題集 練習問題1【問題2】(4)～(6)、【問題3】		並べ替え、フィルター		
6	●問題集 練習問題2【問題2】(4)～(6)、【問題3】 Chapter5 グラフと図形の作成 Chapter6 ブックの利用と管理		グラフ作成・編集、ワークシート名の変更、シートコピー		
7	Chapter4 ブックの印刷 ●問題集 練習問題1 完成		ページ設定、グラフ作成・編集の基本、スパークライン		
8	●練習問題2～3		解説誘導しながら 答案解答作成		
9	●練習問題4～5		各人のペースで解答 巡回してチェック・ポイント解説		
10	●練習問題6～7		"		
11	●練習問題8～9		"		
12	●練習問題10、模擬問題2		"		
13	●模擬問題3～4		"		
14	●模擬問題5～6		"		
15	●試験実施プログラム 模擬問題1		前問題振り返り 時間計測して実施、解答ファイル採点		
16	検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・ D(59点以下)とする。			パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコン の基本的な操作の仕方、表計算やデータを利用した簡単な資 料作成の方法をしっかりとマスターしましょう。授業中に分からな い事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしま しょう。		
実務経験教員の経歴		一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた			

科目名		就職実務Ⅱ			
担当教員	佐藤 緑	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	企業研究の方法を知ることができる。 企業訪問や就職試験について知ることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	動画で学ぶ 就活ナビ				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動の流れ、必要書類作成について	・就職活動の基準、提出書類の種類、流れを知る ・履歴書の学歴や検定欄の更新			
2	求人検索の方法、求人票の見方	・求人検索サイトを知る ・求人票を見ながら項目ごとの意味を知る			
3	合同企業ガイダンス・会社訪問の心構え、準備	・合同企業ガイダンスへの参加に向けた準備 ・企業研究をどのように行うか知る			
4	面接のマナー、面接の形式	動画5-2～3			
5	コミュニケーションは「きく」から始まる、「話す」は「全身表現」	動画4-1～2			
6	日本語の発声法、緊張は友達、リズムカルに話す	動画4-3～5			
7	ディスカッションの基礎、筆記試験対策	動画5-4～5			
8	内定お礼状の書き方	プリント			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		個別面談を行うこともあるので、毎回授業に出席すること。就職関係の提出物などの遅れがないようにすること。			
実務経験教員の経歴		動物看護師として6年弱、動物病院に勤務していた			

科目名		コミュニケーション実践Ⅱ			
担当教員	佐藤 緑	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に勉強したビジネスマナーを復習し、社会人になる準備を始める。				
学習目標 (到達目標)	社会人としてふさわしい立ち居振る舞いを身につける。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	内定先への暑中見舞い・年賀状の書き方	プリント			
2	社会人になってからのマナー(日常のマナー)	プリント			
3	社会人になってからのマナー(身だしなみ、敬語)	プリント			
4	社会人になってからのマナー(備品の名称、使い方)	プリント			
5	社会人になってからのマナー(メール、ビジネス文書)	プリント			
6	社会人になってからのマナー(接待)	プリント			
7	社会人になってからのマナー(慶弔業務)	プリント			
8	社会人になってからのマナー(退職)	プリント			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		書類作成や個別面談をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。			
実務経験教員の経歴		動物看護師として6年弱、動物病院に勤務していた			

科目名					
しつけインストラクター実習					
担当教員	金子 真弓		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	132時間
授業概要、目的、授業の進め方	1.DT担当犬のトレーニング実技を行う。 2.授業内でプレゼンテーションの練習、しつけ教室を開催、飼い主指導が出来るようになる。 3.最終試験として筆記試験、実技、プレゼンテーションを実施。				
学習目標 (到達目標)	1.トレーニングの知識と技術を習得する 2.飼い主へのしつけをアドバイスできるようになる 3.飼い主とのしつけを通して円滑なコミュニケーションが図れるようになる				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	担当犬とのトレーニング(ヒールポジション、犬を回す、オスワリとフセの連続誘導)				
2	担当犬とのトレーニング(アテンション、誘導、待たせる、ヒーリング)				
3	プロンプト、担当犬のトレーニング(ハンドシグナル)				
4	プレゼン(初めて犬を飼う飼い主に勧めるモノorコト) 担当犬のトレーニング(好きなトリックでモチベーションアップ)				
5	ハンドリングテスト(マッテ、ブラッシング、ヒーリングなど)				
6	ケーススタディ(どうアドバイスするかを考える) 担当犬のトレーニング				
7	プレゼン(犬に関わることで頑張ったこと) 担当犬のトレーニング(各姿勢でのマッテ、タッチとスピン)				
8	強化率について				
9	担当犬のトレーニング(チューストゥヒール)				
10	しつけ教室について 担当犬のトレーニング(トリーツを考える、バーンのトリック)				
11	古典的条件付、オペラント条件付について				
12	Tタッチについて				
13	ハンドリングテスト 担当犬のトレーニング(バック)				
14	カウンセリングについて 担当犬のトレーニング(ダンベルの持来)				
15	筆記試験 ハズバンダリートレーニングについて 担当犬のトレーニング(ダンベルの持来、触ることの慣らし)				
16	筆記試験の返却と解説				
17	しつけ教室について(内容、クラス、オリエンテーションなど)				
18	しつけ教室(学内)の参加者について 刺激性制御(Get it)				
19	オペラント条件付の強化⇒ランダムにしてい				
20	しつけ教室オリエンテーション				
21	しつけ教室実技1回目				
22	しつけ教室実技2回目				
23	しつけ教室実技3回目				
24	しつけ教室実技4回目				
25	しつけ教室実技5回目				
26	しつけ教室実技6回目				
27	しつけ教室のフィードバック				
28	最終試験について				
29	プレゼンについて				
30	マナーハンドラーテストのトレーニング				
31	最終試験①				
32	最終試験②				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験50%筆記試験50% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			しつけインストラクターとして約25年以上活動		

科目名					
ドッグトレーニング実習Ⅱ					
担当教員	古保 伸子		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	GCTとマナーハンドラーテストに必要なトレーニングを実施する。 家庭犬に必要なトレーニングとどのように教えるかを考えさせながら、授業を進める。				
学習目標 (到達目標)	1.GCTの項目とそのトレーニングについて理解できる。 2.マナーハンドラーテスト合格				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	GCTレギュレーション、マナーハンドラーテストレギュレーション				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	イーゾークハーネスジェントルの付け方				
2	誘導でおすわりふせたてなど犬の体を自分の思うようにコントロールが出来るか確認				
3	ヒールポジションやサイドポジションに入れるための誘導とレベルアップ フロント クリッカーでタッチスティック				
4	何処までできているかの確認レベルを上げるためにはどうするか話し合いレベルアップ				
5	待っての今の状態の確認 とレベルアップ号令でのヒールポジション				
6	待っての練習 立っての練習				
7	待っての練習				
8	待っての練習 ヒーリング				
9	待って刺激を入れる ヒーリング				
10	待ってのレベルアップ ヒーリング速度変化				
11	待ってのレベルアップ ヒーリング速度変化				
12	待ってのレベルアップ ヒーリング速度変化				
13	ヒールポジションのレベルチェック班で話し合いレベル上げ				
14	ヒーリング歩き出しから各班でのレベルアップ				
15	GCTの項目チェック 項目2・3の練習				
16	GCTの項目チェック 項目2・3の練習				
17	GCT練習 待って 体を触る練習ヒーリング				
18	GCT練習 待って 体を触る練習ヒーリング				
19	人ごみ刺激の中でのヒーリング 待って				
20	GCTの項目チェック通し練習				
21	GCT各班の苦手な部分 四肢を拭く獣医の診察 食事マナー				
22	マナーハンドラーテストに向けて いろんな犬での練習				
23	マナーハンドラーテストに向けて				
24	マナーハンドラーテストに向けて通し練習				
25	マナーハンドラーテスト練習(項目練習)				
26	マナーハンドラーテスト練習(通し練習)				
27	マナーハンドラーテスト練習 足元でフセの練習				
28	マナーハンドラーテスト練習 ヒーリング				
29	マナーハンドラーテスト練習 待って				
30	マナーハンドラーテスト練習(通し練習)				
31	マナーハンドラーテスト練習(通し練習)				
32	振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業の取り組み100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			しつけインストラクターとして26年活動		

ドッグトレーニング実習Ⅲ					
担当教員	長谷川 あや甫		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	<p>・グッドシグネズテスト(以下GCTと記載)について理解を深め、各項目についてトレーニングを行うことで家庭犬に必要なトレーニングができるようになる。更に、他のトレーニングを行うことで、犬とのコミュニケーションを図れるようになる。</p> <p>・1年生と2年生が同じトレーニングを行い、2年生が1年生にトレーニングの方法を伝えることで、人に伝える力を養う。1年生は2年生の伝え方を学び、トレーニング技術を向上する。</p> <p>・2年生はトレーニング方法も考える。</p>				
学習目標(到達目標)	<p>・GCT模擬試験に向け、必要なトレーニングスキル及びハンドリングスキルの習得及びドッグトレーナーとしてのより高度なトレーニングスキルの習得できる、様々なトリックのトレーニングやノーズワークについても知る事ができる。</p> <p>・2年生は人(飼い主)にトレーニングをアドバイスすることができるようになる</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	GCTレギュレーション				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	担当犬の現状把握(健康面/行動面など)及びコミュニケーション				
2	担当犬の状況確認、アイコンタクト(目の前、顔の横、背中)、ルアーで歩く				
3	ヒールポジション、オスワリ待って、抱き寄せ、アイコンタクト、アテンションヒーリング、カラーの脱着				
4	屋外でトレーニング(すでに出来ることを行う、今教えてる事を行う、おいで)				
5	様々な場所でトレーニング				
6	ヒールポジションから待って(対面、1歩以上離れる)、アテンションヒーリング→オードSit、アテンションで歩く				
7	カラー(タオルに顔を入れる、エリザベスカラー装着など)、おいで(立っている足の間に前足が入るように)、ヒールポジションから待って(正面に立つ、そこからできれば離れる)足拭き、セトルダウン				
8	ステイで犬の周りをハンドラーが回る、他人への挨拶、他人が触る、ヒーリングがガサガサの刺激の中を歩く				
9	ステイで犬の周りをハンドラーが回る、他人への挨拶、他人が触る、呼び戻し、ハンドラーの足の間に足を入れる				
10	アテンションヒーリング(イスをまわって)、呼び戻し(ロングリードで)				
11	ヒールポジション、待って(おすわり、ふせ)、アテンションヒーリング、おいで:呼ぶ際の姿勢に注意(立ったまま呼ぶ、ガイドを入れる)	それぞれ犬でトレーニングのアプローチを指導			
12	GCT字モ(テスト項目の直し)を見る、それぞれでGCTの目録				
13	実技試験について、それぞれで練習	1. H.P.(手のシグナルあり、誘導なし)からオスワリ待って、リードの先端まで離れる(20~30秒)ハンドラーは後ろをまわってH.P.に戻る 2. ヒーリングで指定された場所からイスのところで歩く、イスを回り込み、イスの横でオスワリ(ハンドラーとイスの間に犬を挟み込んでオスワリ) 3. 犬を預け、指定されたところまで離れて「おいで」			
14	苦手項目、トレーニングについてグループで検討				
15	実技試験実施				
16	実技試験解説				
17	・GCT項目の各項目の細分化 ・Goマットのトレーニング	Goマット(1.8m離れたところのマットまで送り出す。犬の四肢(特に前足)がはみ出さないこと。OKが出るまで、マットで伏せていること)			
18	・GCT項目のトレーニングについて ・Goマット、アラウンド&前進、箱に入る(高さ、広さ、誘導Orシエビング)→箱の中でスピカターンor箱に乗り	アラウンド&前進:アラウンドをしながら人は止まらずに前進し続ける			
19	・GCTの項目を通し練習 ・Goマット、アラウンド&前進、箱に入る(スピカターン)				
20	・屋外でGCTを通し練習(3~4項目ごとに人を変える) ・Goマット、アラウンド&前進、箱に入る(スピカターン)スピカターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待って(伏せ、おすわりから誘導で)	Goマット、アラウンド&前進、箱に入る(スピカターン)			
21	・室内でGCTを通し練習 スピカターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待って(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)、ハンドラーと犬役に分かれてハンドリング(ヒーリング)				
22	・教えなければいけない行動、項目間の集中をどう取るのか?(タッチやスピカターンなど)、ツールを握りやす(増やす)ためには行動として「教えなければいけない」※上記を話し合せて、解決方法を考える ウォームアップについて、テーブルの下に左右から入る スピカターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待って(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)、ガムテープのタッチ(壁の垂直面)(鼻先でタッチ)				
23	・教えなければいけない行動、項目間の集中をどう取るのか?(タッチやスピカターンなど)、ツールを握りやす(増やす)ためには行動として「教えなければいけない」ことを練習 スピカターン(声符で)、足を後ろから跳ぶ、立って待って(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)、ガムテープのタッチ(壁の垂直面)(鼻先でタッチ)				
24	・GCTの直し練習(各チームで項目の練習) ・スピカターン(声符で)、立って待って(伏せ、おすわりから誘導で)、マズル(小指側から鼻先を入れて来て止まる)				
25	・GCTの直し練習(各チームで項目の練習) ・ガムテープのタッチ(壁の垂直面)(鼻先でタッチ)、フロント、手のウィーブ				
26	・ノーズワーク(導入) ・フロント、手のウィーブ、立って待って(おすわり、伏せから誘導で)				
27	・ノーズワーク(ボディランゲージの読み方) ・後期テストの打ち合わせ(ゲーム)				
28	・ノーズワーク(レベルアップ) ・企画ゲームのリハーサル				
29	・ノーズワーク、サーキュレーターを使う(高さ、箱の中、箱を重ねるなど) ・企画ゲーム注意点、改善点の指導				
30	・テスト内容について ・実技試験(企画ゲーム)実施	Goマット、アラウンド&前進(5歩以上)、立って待って(おすわり、伏せから誘導で)5秒以上止まること、マズル(小指側から鼻先を入れる)3秒以上止まる、フロント			
31	・実技試験実施 ・実技試験(企画ゲーム)実施				
32	・実技試験解説				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
<p>実技試験100%</p> <p>成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>					
実務経験教員の経歴		じつげんインストラクターとして25年活動			

科目名		ドッグスポーツ実習			
担当教員	古俣 伸一郎		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	ドッグスポーツの競技について理解し、ハードルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。トレーニングは各担当グループで考えながらどのようにトレーニングしていくかを進めていく。				
学習目標 (到達目標)	ドッグスポーツを通じて犬とのコミュニケーションを図ることができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ドッグスポーツ説明 ハードル設営ハードル実技				
2	いろんな競技の説明ハードル設営ハードル実技				
3	ハードル ディスクとフリスビーの違い ディスクの投げ方				
4	ハードル進行状態の確認 ハードル、アジリティについて				
5	ハードルのトレーニング アジリティのジャンプとトンネル班ごとでトレーニング				
6	ハードル出着ないところの直して強化していく アジリティ単品練習から流れの練習				
7	ハードルとアジリティのコースをノーリードでやる				
8	ハードルアジリティをノーリードでやってみての反省と改善点のトレーニング				
9	アジリティ単品とコース練習 ハードル練習ディスクを使ってのゲーム				
10	ハードルとアジリティ大会に出るための改善点と強化練習				
11	ハードルアジリティの反省と改善点のトレーニング 役割分担 アシスタントの説明				
12	ハードルアジリティタイムを取り実践を考えて改善点を強化				
13	AFCで学んだ事の発表ハードルアジリティタイム計測をして改善点の強化				
14	ジャンパーズコース練習				
15	ジャンパーズコース練習				
16	コースのタイム計測				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		20年以上アジリティの大会参加、入賞			

科目名		犬の世話と管理Ⅱ			
担当教員	中野 貴行	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	192
授業概要、目的、授業の進め方	1頭の犬の管理を複数人以上で行い、担当者間で情報共有を行いながら進めていく。				
学習目標 (到達目標)	犬の健康面、行動面などを検討しどのように管理するかを考え実行できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	世話の流れと注意事項				
2	担当犬の世話『散歩の注意について』				
3	担当犬の世話『健康チェック①』				
4	担当犬の世話『環境整備』				
5	担当犬の世話『グルーミングのケア』				
6	担当犬の世話『掃除について』				
7	担当犬の世話『散歩でのトレーニング』				
8	担当犬の世話『GCTを見据えた管理検討』				
9	担当犬の世話『グルーミングケア』				
10	担当犬の世話『環境整備』				
11	担当犬の世話『健康チェック②』				
12	担当犬の世話『掃除について』				
13	担当犬の世話『散歩について』				
14	担当犬の世話『ケアでのトレーニング検討、実施』				
15	担当犬の世話『前期の振り返り①』				
16	担当犬の世話『前期の振り返り②』→後期へ実施				
17	担当犬の世話『2年生から1年生への指導について』				
18	担当犬の世話『2年生から1年生へ散歩での注意事項』				
19	担当犬の世話『2年生から1年生へ管理面で考えること指導』				
20	担当犬の世話『2年生から1年生へケアについて』				
21	担当犬の世話『1年生に散歩してもらい、ハンドリング補助』				
22	担当犬の世話『現状から管理の確認』				
23	担当犬の世話『栄養管理見直し』				
24	担当犬の世話『ケアでのトレーニング検討』				
25	担当犬の世話『散歩での道具見直し』				
26	担当犬の世話『冬季での管理環境整備①』				
27	担当犬の世話『冬季での管理環境整備②』				
28	担当犬の世話『健康チェック③』				
29	担当犬の世話『担当犬の共有事項まとめ①』				
30	担当犬の世話『担当犬の共有事項まとめ②』				
31	担当犬の世話『担当犬の共有事項まとめ③』				
32	担当犬の世話『世話管理での総括』				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
マナーハンドラーテストの合否50%、レポート提出50%(テスト合格はレポート無し) 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	専門学校教員として12年勤務				

科目名		ドッグマネジメントⅡ			
担当教員	中野 貴行		実務授業の有無	×	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	担当犬の管理を進めていく上で、検討が必要なことやグループ内で共有することなどを決定していく。				
学習目標 (到達目標)	犬の管理で考えるべきこと、注意すべきことなどを検討し、実行できるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	担当犬で統一すべきことの検討				
2	犬世話の流れと注意事項① 犬管理計画(投薬、シャンプー、栄養)(グループディスカッション)				
3	犬世話の流れと注意事項② 犬世話時に必要なものとは?(グループディスカッション)				
4	グループでの犬管理の目標(1年後の犬は・・・?)(グループディスカッション)				
5	散歩時対応ケーススタディ				
6	散歩時対応ケーススタディ②体験事例の情報共有				
7	グループミーティング(これまでの管理でうまくいった点、改善点)				
8	GCTについての概要説明				
9	GCT テスト項目研究(トレーニング、管理を検討)				
10	犬管理計画見直し(グループディスカッション)				
11	トレーニングで統一することをディスカッション				
12	GCTミニテスト実施				
13	犬の環境設定再検討(道具、フード、処置など)				
14	内容まとめ				
15	期末試験実施				
16	試験解説				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
筆記試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		専門学校教員として12年勤務			

科目名	動物行動学				
担当教員	中野 貴行	実務授業の有無	×		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	8
授業概要、目的、授業の進め方	犬や猫の行動様式の特徴を様々な視点から学び、犬や猫の本質などを理解させる。テキストとパワーポイントを使用しながら授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	人と動物の調和に関わることを学び、それを元に犬や猫の行動についてアドバイスできるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	犬と猫の行動学～基礎から臨床へ～				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	動物行動学の概論、歴史、犬と猫の歴史と家畜化について				
2	行動の発達について(新生子期～高齢期)				
3	犬と猫のコミュニケーションについて				
4	犬と猫の社会行動について(性行動も含む)				
5	維持行動について				
6	学習理論について				
7	期末試験実施				
8	期末試験解説				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験100% 成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			専門学校教員として12年勤務		

科目名		エキゾチックアニマルⅡ			
担当教員	広川美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	ペットショップで販売されているエキゾチックアニマルについて学ぶ。飼い主に飼育方法をアドバイスできるようになる。				
学習目標(到達目標)	各生体の品種、習性、繁殖、病気について理解し、アドバイスが出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	エキゾチックアニマルとは 環境エンリッチメント ハムスター6種の分類				
2	ハムスター品種・特長 ジャンガリアン、キャンベル見分け 異常繁殖の問題点 ハムスターの生態				
3	ハムスター 習性、繁殖、飼育方法				
4	ハムスター 臨床、疾病				
5	ウサギ 品種、特徴 ドワーフ遺伝子の問題点 ウサギ生態				
6	ウサギ 習性、繁殖、飼育方法				
7	ウサギ 臨床、疾病				
8	モルモット 品種・特長、生態・習性				
9	モルモット 繁殖、飼育方法				
10	モルモット 臨床、疾病				
11	フェレット 生態・習性 ファーム繁殖の現状				
12	フェレット 繁殖、飼育方法				
13	フェレット 臨床、疾病				
14	テスト+(解説)				
15	(解説)				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		動物病院にて動物看護師兼トリマー10年、独立サロン経営18年			

科目名		ドッグレクリエーション			
担当教員	竹石 拓矢		実務授業の有無	○	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	前期後半、後期前半
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・犬と飼い主が楽しめるレクリエーションの実践 ・ドッグダンス(ミュージカルフリースタイル)を創作する ・山形幸輔先生による特別講義(全3回) 				
学習目標(到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・犬とのコミュニケーションを図るための、ゲーム、レクリエーションを考案、実践し飼い主へ提案やアドバイスが出来る。 ・ドッグダンスを創作し発表会(学園祭にて)を行う 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	レクリエーションの概要、犬と飼い主双方の安全の考慮やレベル、ルール設定についての講義・【ミュージカルチェア】実践		グループディスカッション、実技演習		
2	山形幸輔先生 特別講義(ミュージカルフリースタイルについての講義と犬のトレーニング)		講師による実技演習		
3	ミュージカルフリースタイル創作開始		グループディスカッション、実技演習		
4	山形幸輔先生 特別講義(ダンスの途中経過を評価いただき、アドバイスを受ける)		講師による実技演習		
5	フリースタイル 班別練習 フォーメーション(陣形)練習		実技演習		
6	フリースタイル練習 班別練習 レクリエーション【シャークシャーク、お玉運び】実践		実技演習		
7	フリースタイル 班別練習→通し練習		実技演習		
8	山形幸輔先生 特別講義(模擬発表会)		講師による実技演習		
9	ミュージカルフリースタイル 発表会		ダンス披露(観覧者あり)		
10	発表会の振り返り		発表の様子のビデオ視聴、ディスカッション		
11	レクリエーション実践		実技演習		
12	レクリエーション(ゲーム)創作		グループディスカッション、実技演習		
13	レクリエーション(ゲーム)創作		グループディスカッション、実技演習		
14	レクリエーション創作		実技演習		
15	レクリエーション実践会準備		実技演習		
16	創作レクリエーション 実践会		レクリエーション披露、評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			グループで1つの創作ダンスやレクリエーションを制作するため、欠席が重なると実習内容や目標達成が難しくなります。犬と楽しくコミュニケーションを図る事を飼い主に伝えるには、日々の実習に明るく笑顔で取り組むことが大切です。		
実務経験教員の経歴	ドッグトレーナーとして約1年間トリミングサロンにて勤務				

科目名		異文化研究(海外研修)			
担当教員				実務授業の有無	
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	異国の文化(言語、気候、風習、歴史など)を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解を目指す。				
学習目標(到達目標)	異国の文化について理解を深めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	無し				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	飛行機にて移動	パスポートの申請、飛行機の搭乗を経験する			
2	現地到着、研修1日目	現地での食事、お金の支払いなどを体験する			
3	研修2日目	現地での簡単な会話を行いながら文化に触れる			
4	研修3日目	現地で様々な体験を通して文化に触れる			
5	研修4日目、日本へ帰国				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

動物看護実践Ⅱ					
科目名	動物看護実践Ⅱ				
担当教員	山下 静香	実務授業の有無	○		
対象学科	ドッグトレーニング	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	1年生で履修している動物看護実践Ⅰから引き続き、より実践的に検査実習なども盛り込み、看護技術のレベルアップを図る。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ●動物病院で行っている基本的な検査について、目的や方法を理解し、手技を習得できる ●手術関連業務について、準備や術前術後の看護、麻酔管理を理解し、把握することができる 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インターズー 動物看護実習テキスト				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業概要、動物看護師とは	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
2	採血時の保定、投薬法、創傷管理	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
3	顕微鏡の扱い方	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
4	血液検査 検体処理、CBC検査、ヘマトクリット検査	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
5	血液検査 塗抹標本の作製、鏡検	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
6	血液検査 生化学検査、簡易キットを用いた検査	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
7	尿検査 検体処理、性状検査	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
8	尿検査 化学的検査(ペーパー)、顕微鏡検査(尿沈渣)	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
9	便検査 検体処理、性状検査	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
10	便検査 顕微鏡検査(直接塗抹、浮遊法)、簡易キット	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
11	耳垢検査	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
12	眼科検査、皮膚検査	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
13	レントゲン検査 レントゲン(X線)とは、ポジショニング、現像と管理	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
14	レントゲン検査 ポジショニング実践	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
15	期末試験				
16	期末試験の振り返り				
17	超音波検査 超音波の仕組み、準備、取扱い	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
18	超音波検査 CT検査、MRI検査、画像の見方	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
19	心電図検査 原理、正常波形とは、取扱いと操作、記録紙の見方	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
20	心電図検査 ポジショニング、取り付け実践	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
21	手術関連業務 手術器具の種類と目的	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み スケッチ、実践			
22	手術関連業務 手術器具の種類と目的	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み スケッチ、ゲーム形式で準備の実践			
23	手術関連業務 リネン類の種類と目的	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
24	手術関連業務 リネン類の種類と目的	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
25	手術関連業務 縫合糸、針の種類と特性	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
26	手術関連業務 滅菌管理、歯科処置の看護とケア	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
27	術前術後の看護 気管挿管、血管確保、輸液、術後のバイタルチェック	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
28	術前術後の看護 術野の毛刈りと消毒、術衣・手袋の装着、滅菌と汚染の区別	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み 実践			
29	麻酔モニタリング 麻酔薬について、麻酔器の仕組み、機器の装着方法	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
30	麻酔モニタリング バイタルチェック、麻酔機器、補助呼吸及び人工呼吸	動物看護実習テキスト、配布プリントにて書き込み			
31	期末試験				
32	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		1年次履修の動物看護実践Ⅰで行っていることを考慮して、より実践的な検査・看護技術を身に付ける。動物病院への就職を希望する学生も多いため、動物看護師が病院で日常的に行う手技を身に付ける。			
実務経験教員の経歴		動物看護師として約4年勤務			